

去る2月24日(土)、中央支部総会を開催した。

公益社団法人に移行後、支部総会は活動報告と教育セミナーの抱き合わせで行ってきた。しかし、昨年意見交換会で県理事、ならびに運営委員の皆さんの意見から他支部のように学術大会や宿泊も含めてやってはどうか、の声に後押しされ、今回の開催の運びとなった。総会の参加人数、懇親会の参加人数、そして宿泊者はいるのだろうか？そんな上安の中、運営委員の多大なご尽力により50吊ほどが集まる盛況な会となった。ご参加いただいた皆様には感謝申し上げます。

総会ではこの1年の内容活動が報告された。次年度は改選となり、次期役員がほぼ決まりつつあることが報告された。特別講演は、平成24年度総会でもご講演いただいた秋田大学法医学講座 美作 宗太郎教授よりAiのメリットとピットフォールについて数々の症例も基にご紹介いただいた。Aiの実施状況は各施設で異なっていたが、警察からの依頼によるAiも今後増える可能性もあり、死後変化による画像の違いが少しずつ解明されつつあるように感じた。

支部は初の開催となる学術大会では、6吊の会員が発表を行った。本学術大会は5月に行われる県の学術大会の言わば前哨戦であり、発表者の練習や会員の興味をそそる場としての活用を期待している。モダリティが異なると質問できないことも、また口を出してはいけないという雰囲気も取り払った、和気あいあいとした中できたことは大変よかった。

発表者の今後のご活躍を見守りたいと思う。

その後、出席者の約半数の方々とお酒を飲みながら、総会というお祭りで盛り上がった。その余韻は、そのまた半分ほどの会員と賛助会員によって夜の11時まで続いた。

(記 谷口 直人)



